

第2回総合計画審議会 議事要点録

I 日 時 平成31年2月1日（金曜日）10時00分～12時00分

II 場 所 長浜市役所3Bコミュニティルーム（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 石井良一委員（会長） 松島三兒委員（副会長）
廣部恭子委員 平井和子委員 松居弘次委員
鈴木厚志委員 吉川兵衛委員 平井和子委員
井関真弓委員 大橋延行委員 中西恭子委員
福島孝夫委員
【オブザーバー】 小西靖則氏
【事務局】 古田総合政策部長、米田総合政策部次長、横尾総合政策課長、
柴田課長代理、服部主幹、山田主査、田中主事

IV 内 容

1 開会

事務局 <開会のあいさつ>

2 議事

(1) 総合計画第2期基本計画（最終案）について

事務局 <資料説明（資料1, 2参照）>

H30. 12. 17 から H31. 1. 15 までのパブリックコメントの結果（意見対応）及び前回の審議会後の庁内意見照会による修正箇所について説明。あわせて6つの重点プロジェクトについて説明。

会 長 ありがとうございます。今回の第2期基本計画は2019年度から2022年度までの4年計画です。表現は、非常に抽象的な言葉が並んでいますが、この下に実施計画があります。そこには、予算の裏付けも含めた細かな事業が位置付けられています。

この基本計画に基づき、単年度で予算を付けて、一つ一つの事業を実行していくこととなります。この基本計画は、時代の変化に合わせて、4年後にまた見直しをしていきますが、少なくとも今後の4年間は、こちらに沿って事業が展開されます。細かい内容でも構いませんし、気が付いたことがあれば、ご意見をお願いします。

委 員 目次のページ番号がずれているので見直しをお願いします。

委 員 今は人口減少が問題とのことで、長浜でも深刻化していることを感じてきています。外から人を呼び込むことや市内にいる人を外に出さないだけでなく、産みたい、あるいは産もうと考えている若い人の感覚に届く言葉で表現できないか。

最近では、個人の問題であるとタブーのように全く触れられません。逆に働く女性が、主人と相談して子どもを産まないことにしましたとテレビに出ると、若い女性はそうなのかと思ってしまう部分もあります。『子育てにやさしい』という表現も分か

事務局 ありますが、もう少し突っ込んだ表現を入れてほしいです。

会長 タブー視がいいのか悪いのかは別として、そこはオブラートに包んだ表現で、子育てしやすいまちという表現をしている部分があります。この辺りをどこまで積極的に計画の中で表現できるかということだと思います。

委員 最新の推計では、長浜市は2045年に9万人になり、これは非常に現実的な推計です。市は10万人を維持するとしていますが、今はその水準を下回ってしまっています。今、言ったことは大切ですが、このような言葉には表現しづらい面もあります。

私は市の結婚相談員組織の会長職をしていますが、本当に婚姻率が低いです。足元から何とかしようとのことで、企業や市職員の方たちなどにPRしています。地元愛を持って長浜に勤めていただいて、そこで家庭を築く。相談員の皆さんは、すごく頑張っています。

女性が市外に流出する率が高いことを言われていましたが、皆さんの中でお嬢さんがいる方は、街に行きたいと考えている方が多いと思います。特に北部地域ではお嫁さんがなく、今、結婚相談員が切実に抱えている問題です。個人の問題なのか、地域の環境が問題なのか、あるいは北へ行ったら寒いし、大変だからと言って、育ててきたことがいけないのか、それは分かりませんが、長浜の魅力をアップするためには、その辺りから根本的に変えていかなければいけません。先程言われたとおりですが、言葉にはし辛い現状です。組織の中でも暗黙の了解で、飲み込んでいることが多いです。そこを打破しなければならないとずっと言っていますが、若い方の結婚の機運が高まらないことが一番のネックです。

また子育ての支援についてですが、明石市は、すごく住みやすいとのことで、人口も増加していると、電車の吊り広告に書いてありました。若い人たちも神戸市から明石市に移っているとのことです。なぜかといいますと税金が安いし、子どもに対してのお金もあんまりかかりません。医療費もすごい手厚くカバーしてくれるとのことです。みんな、移っていきらしいです。

都市部でも人口の取り合いをしている状況です。長浜はいいまちだという声も聞きます。そのような声に耳を傾け、若い女性も育った長浜で暮らしましょうと、何とか機運を高めていきたいわけです。

その政策が多岐にわたっていて、ちょっとつかみにくかったので、先程のご意見の後に話をさせてもらいました。実際の人の動きを見て、どうするかシミュレーションをして推進していくでもいいのではないのでしょうか。もっと切実感を持って、皆さんが考えられるきっかけにもなります。

副会長 おっしゃるとおりです。今、人口減少の中で5番目のプロジェクトの中にコンパクトシティといわれる言葉が入ってきています。行政としても、都市規模をどうしていくかを前面に打ち出さなければならないとのことで、このような考えも出てきているのでしょう。集約型多核都市構造といわれる言葉もできています。要するにいくつかの核を考えて、それをネットワークしていこうとの意味なのですが、どのような核を想定されていますか。

事務局

コンパクトシティ・プラス・ネットワークの部分です。計画的にいきますと、やや専門用語となりますが、立地適正化計画といわれるものがあります。これは都市計画の考え方で、住む場所と働く場所、遊びに行く場所などを機能的に分けるものです。みんなに効率良く住んでもらう、住んでもらう場所を誘導するため、基本的には市街化区域に誘導して、市街化調整区域や田園地域については設備投資を控えていく。投資を効率良くしようとするのが、立地適正化計画の考え方です。

そのためには周辺部から中心部に向けて、交通網をしっかりと整備させます。長浜で旧町ごとに、地域づくり協議会で頑張ってもらっています。しばらくの間、各地域における拠点は今までどおり、しっかりと後押しをしていく部分と、その部分をネットワークとして鉄道や公共交通でつないでいきます。

そちらとあわせて、木之本や長浜の市街地に加え、もう一つ、これから開発が進んでいくのが田村駅周辺です。そのような部分については一定の流動を促していきます。その施策として田村駅周辺整備を行います。今後、南長浜といわれるキーワードがでてくるかと思えます。その田村駅の周辺に人や施設などを集めていくことが、現時点の都市計画の大まかな考え方になっています。

委員

田村駅の南長浜は人口のダム機能とのことで、北部の方が出ていくのを食い止めるためであることは理解できます。これは全ての文言についてですが、基本計画なのでぼんやりとした言い方しかできませんが、これをいかに実施計画に落とし込むか。そのこのところをもっと精査が必要だと思えます。

私は北部地域に住んでいます。例えば、長浜まるごと未来のシカケプロジェクトの部分です。このプロジェクトでも中心市街地である長浜駅の周辺は、具体的な活性化策がきっちり書かれています。北部地域の振興のところでは重点エリアとして大まかな書き方しかされていません。皆さんがイメージできるところとイメージできていないところがあります。これは基本計画ですから、このような書き方しかできないのでしょうか。

職員の方がいろいろ頭と知恵を絞って書いたものと思いますが、実施計画に反映させるときには皆さんに基本計画と実施計画が乖離しないようにしてもらいたいです。先ほど他の委員さんが言われた内容のことも、ここには落とし込めないですが、実施計画のときにはきちんと言葉で伝えていけるはずですが、その辺を考えてもらいたいです。

同様に「人材づくりをけん引する安心・安全の地域を支える」のところですが、地域のリーダーを養成することや、人材を発掘すると書いていますが、育成するといいますが、具体的にどうするかの手法や方法論は難しいですが、その辺を実施計画の中にきちんと示してもらったほうがいいです。

文言的にはこれしかないと思いますが、その辺で北と南といわれる言葉もありますので、その辺を考えてもらいたいです。南長浜のダム機能は、理解できます。ただし、北のほうはどうするのかの文言的なところも大切なので、実施計画において対応をお願いします。先ほど気になったのは、実施計画は単年度計画とのことですが、4年

間、実施計画を連続して取り組めるよう各部署にお願いしたいです。

また各部署がそれぞれ縦割りで産業、観光、行政改革、総務など整理されています。そののところをきちんと横串をさしてもらいたいです。真のお金の使い方なのか、10年後はどうか、今、聞いていますと、お金がないから縮小しようという形が多いものですから、その辺を実施計画できちんと対応してもらいたいです。

事務局

個別事業でいいますと、今ほどの実施計画は本編には付いていませんが、今は役所の中で500事業ぐらいあり、その実施計画に基づいて予算要求を行っています。事務事業の根幹となる実施計画書については、総合政策課で、しっかりと確認していくとともに、今言われた横串をさす点では各課とヒアリングをしながら進めています。

各事業ごとに過去の実績や指標設定、どのような効果を出したいのかを含めて、評価するようにしています。また事業目的や成果、投資効果、投資金額はどの程度なのか。これらを全てまとめて、事業を進めていきますし、今後についてもしっかりと対応したいと考えています。

皆さんから意見をいろいろと頂戴しましたが、私どもの思いも全く一緒です。書きぶりとしては抽象的ですが、実際に予算化するときには、総合政策課が音頭を取りながら、しっかりとしていきたいと考えています。この辺は、皆さんの思いを事業化できるように実施計画をしっかりと進行管理してまいります。

委員

リターンについてですが、成人式はその学年の子が地元が集まってくるチャンスです。そのときに、成人式に行きたいと思うような式を計画していくことも大事です。例えば、親が振り袖を着せたい、親が一生懸命に帰ってこいと言うことで、帰ってきている子もいますが、何かの事情や面白くないから行きたくない子なども身近で聞いているとあります。

今は全県一区になって、高校がばらばらになってしまっていることもあります。中学生は成人式の後にすぐ同窓会をします。そのときに複合ホールとして、1000人ぐらいを収容できる大ホールがあれば、わざわざ別々に成人式をする必要もありません。ホテルをわざわざ借りなくても、市の大きいホールで成人式ができます。

そのようなときに懐かしい出会いなどもあって、帰ってこようかなどのチャンスもあります。他の難しい事業も大事ですが、身近に、若者を長浜に回帰させたいのでしたら、そのようなチャンスをどのように生かしていくかを小さいことから考えることも大事です。

何年か後に18歳が成人になります。18歳で成人式をするのか。どのようにしていくのだろうか。大学受験があるのに成人式をするのか。私も身近な人で、そのような不安を抱えている方が何人かいます。この件について市はどうするのか。何かはつきりしたものも考えてもらって、いかに子どもたちを長浜に帰ってこさせるか。ただの式ではなく、成人式を利用して、長浜のいいところをもっとアピールしていく。面白いところを紹介していく。イベント的なこととしていくと、子どもたちがもっと帰ってきたいと思える式になるのではないのでしょうか。本当に子どもに長浜へ帰ってきてほしい気持ちがあるのであれば、そのような身近なことからコツコツとしてい

くことも大事です。

事務局 成人式に関しては、現在整備しています（仮称）北部地域総合体育館があります。この施設が完成すれば、そこで一堂を会して行いたいと考えていると聞いています。成人年齢が18歳になりますが、皆さんが寄ってもらう機会は20歳が一番、大事であり、20歳の集いを企画していこうかと考えています。これから実際、実施計画の中で検討していくと思われまので、今日のご意見は、担当課に伝えておきます。

会 長 今、成人式は何カ所で行っていますか。

事務局 昨年ぐらいから2カ所になりました。

会 長 関係人口について、先ほど説明がありました。当然ながら、高校あるいは大学を卒業した後は仕事ですから、仕事がある所に飛び立っていきます。それは別に否定するものではありません。その中で、常に心の中に長浜がある。お父さんやお母さんのいる実家がある場合は、帰ってこられます。そうでなくても高校や中学を卒業した思いの中で、長浜が何となく感じられる意味での関係人口といわれるものを新しい概念として取り入れる。

後で説明をもらいたいですが、今、20歳の成人式の話がありました。恐らく外で10年ぐらい働いて30歳になると、本当にこのまま今の仕事を続けていいのだろうかとか誰でもみんな、悩みます。もしくは、もっと別の世界で自分の力を発揮したい。

そのようなところでいえば、例えば30歳の集いや40歳の集いなどで、関係人口をもう少し強固にしていくアイデアもあるのではないのでしょうか。人生の転機をつくるといいでしょうか。そこで長浜について、いろいろなことをPRすると、途切れた絆がまたつながっていきます。そのような仕組みも、今後はあってもいいのではないのでしょうか。

事務局 関係人口といわれる言葉ですが、住む場合の定住人口と観光で来られる交流人口があります。その間に位置する人口のことを概念的に関係人口といいます。例えば、首都圏にいて、長浜に思いをもっているような方です。簡単にいいますと、ふるさと納税で長浜のために寄付をするなども含まれます。その中で、現在進めているのが、「東京・長浜リレーションズ」という事業です。

これは東京で活躍されている長浜出身者や、長浜で働いたことがあるなどで、長浜にゆかりのある方が組織をしているものです。今年度に立ち上がったものですが、現在100人を目指して活動しています。そこで話を聞いていますと東京で今、仕事をしているけれども、ふるさとである長浜とつながりを持っていたいと言われている方がたくさんいます。

今後の事業としましては、長浜に帰ってくるような大人の修学旅行や、長浜に帰ってきたときに集う拠点づくり、またふるさと納税の返礼品で、どのようなものかいいかを東京の目線で考えてもらう。そのようなメニュー作りをしてもらうことを考えています。

委 員 この文章の中に、「人口が減っていく私の町」というのがあります。人口が減っていくことはどういうことかといいますと、長浜におじいさんやおばあさんがいて、都

内に子どもたちがいて、引き取るとのことで、まちなかが空洞化していきます。それがものすごいスピードで、私の住んでいるところはまちなかですが、極端なぐらい減っていています。

この対策を考えなければならないことが、1点目です。逆に増えていく話ですが、長浜は住みたくなるまち日本一を2回、取りました。その年のデータを見てください。人口が増えています。それは、長浜がそれだけ住みたくなるまちであると発信しているから、日本一になったのではないのでしょうか。そのときに私どもはキャッチフレーズを住みよさも交通マナーも日本一として、マークも作りながら一生懸命に頑張ってきた時代があります。

そのようなことから考えると、住み良さとは何なのか。それは、長浜が安心安全なまちであることです。7ページの中に地域で支え合いのプロジェクトがありますが、防災は当然重要ですが、防犯の文言のほうはないので、防犯や事故に関する考え方も入れてもらえるとありがたいです。111ページの基本方針の市民一人一人の防犯意識の向上と自主的な防犯活動の推進を図る後の本文中、「市民総合ルールによる暴力を許さない社会づくりを推進します。」となっていますが、急に暴力を許さないと出てきて、長浜はひどいことになっているのか。そのようなイメージが湧いてしまうと困ります。児童虐待もあるのか。そんなことはありません。暴力団が入ってくることを拒むことが主眼なのかもしれませんが、よく分かりませんが、その辺のところに違和感があります。

事務局 これは、もともとは暴力追放の考え方ですが、この点については、事務局のほうで適切な表現に修正します。

委員 重点プロジェクトの4つ目の、身近な自然を生かすプロジェクトの中の2番目にある再生可能エネルギーについてですが、何か具体的に目標値や、地域での、地産地消によるエネルギー計画的なもののローカル版をつくるようなプロジェクトになるのでしょうか。

事務局 担当課で確認しましたが、「長浜市再生可能エネルギー利活用方策」という計画があります。これは平成24年度に策定して、平成27年度に改定しました。その中に導入目標数値としましては、2020年（平成32年）に7,000万kWhです。なかなかつかみにくいですが、平成27年度時点で3,454万kWhでしたので、平成27年度時点から大体、倍増させていく計画になっています。再生可能エネルギーの種類としては、9割が太陽光発電です。残りの1割がバイオマスの熱利用や小水力発電が含まれており、風力発電については、この時点では挙がっていません。恐らくは、2020年の見直しのときにまた検討することになります。

委員 市内には、長浜バイオ大学と滋賀文教短期大学があります。市と連携して、いろいろと行っていることは、新聞では目にします。学生さんと企業で何かをする。あるいは、行政と何か連携して行うときに学生さんも参画できることをしていけるといいのではないのでしょうか。

出ていくばかりではなく、逆に学生として長浜に4年間や2年間住んでくれてい

るわけです。何か学生さんとのつながりや、長浜の素晴らしさ、企業と関わる中で長浜はいい所だと思ってもらったり、それこそ長浜に住んでもらえるような取り組みは、どこかでされていますか。

事務局 この審議会にもバイオ大学から先生に来ていただいています。バイオ大学との連携もあります。滋賀文教短期大学では保育士の養成をしていて、特に今年度から連携を深めています。

ただし、現実としてはバイオ大学の学生さんが市内企業にそのまま就職されるのは、年間で3~4人ぐらいです。ただ大企業の本社採用で長浜で勤務する場合は把握しきれない部分もあります。

その他では32ページの「大学との連携」として施策出ししています。中でも大きく取り組んでいましたのは理系人材の育成です。バイオ大学との連携で、市内の小中学生が大学にある「学びの実験室」を使って様々な理科実験をしてもらっています。ただし、今、言いましたように大学生としてやっと長浜に来てもらっても、また地元に戻ってしまうこともあります。地元で就職してもらおうことについてもバイオ大学さんといろいろと話しています。

委員 若い人の流出について、一旦長浜に就職しても、やっぱり東京に出たいといった子が何人かいます。逆に長浜から東京へ留学できるものを設けたらどうでしょうか。留学の形で東京へ出す。先ほど言われた東京の人を長浜に受け入れるのだったら、長浜の人も東京に行き、東京を体験してもらおうようなものもつくる。あくせくするのではなくて、ある意味ドンと構えて、行きたかったらいつでもおいでぐらいでもいいのではないのでしょうか。

事務局 そのようなものもできたらいいですが、そのためには市内の企業や事業所にその商いをしてもらおうといえますか、例えば、長浜に本社がある事業所が東京の関連企業と事業連携をしてもらおう形で、つながりをつくってもらおう。先ほど説明しました東京ー長浜リレーションズがあります。メンバーには単に長浜を応援したい気持ちの方もいますが今後、われわれが望みたいのは、そのような事業者同士のつながりもその中でつくっていくことです。そこで取引が発生して、市内企業が成長していく。その取引の中で今、言われたようなことができ上がってくると、まさにいったんは東京に出ても長浜に戻ってくる仕組みにつながっていくのではないかと思います。

副会長 長浜の良さは外に一回、出ると分かる部分が結構、あるのではないかと思います。ずっと中にいると、隣が良く見えてしまうこともあります。そういう意味では今回、第2期起業型地域おこし協力隊などの外からビジネスを長浜に持ち込む人たちは、そこに何か一つの理由があったからです。

そういう人たちをもっと活用してもいいのではないのでしょうか。それが、ここに住んでいる若い人たちにとっての、一つのビジネスリーダーとしてのモデルになっていくのもいいでしょう。例えば、ここで雇用されるだけでなく、新しい仕事をつくり出していくことにつなげていくこともすごく大事です。それが長浜の中だけで完結するのではなくて、外との関係を持ちながらビジネスをしていく。

委員

今はインターネットなども使えるので、別に物理的に近い距離ではなくても、ビジネスはいっぱいできるので、そのようなものをうまくつくっていく。まちづくりのリーダーという表現はありますが、ビジネスリーダーといわれる表現は、この中には入っていません。そのような若い人たちを養成していく意味でも大事です。

私も今、副会長が言われていることを感じるがあります。とにかく産業そのものを長浜で生む方法が一つと、あとは引っ張ってくるしかありません。確かに生むのは今、取り組みが始まっているところですが、これはかなり時間がかかることです。10年ぐらいではできないです。今は産業のスピードが非常に早いです、つぶれるのも早いです。それでも、それは続けていかなければいけないことです。

もう一つは、外から引っ張ってくることです。直近では、市内国友町に(株)コロワイドがセントラルキッチンの施設を持ってこられました。あれも結局は、市内の雇用を一つ生み出した形としてはいいですが、外部からその人を引っ張ってくる形にはなっていません。どうしたら、企業が長浜で産業をおこし定着させるか。何か一つをしようとなると、他のところにはない利点や特徴が必要です。立地条件は、そもそもそんなに悪くないです。

例えば、土地代が極端に安い。税制がかなり優遇されている。昔からよくいわれている話ですが、工場立地や企業立地をするためにお金の面で優遇する。これを具体的にしないと多分、引っ張ってこられないです。これは企業だけではなくて、大学でも一緒の話です。私も細かいことは分かりませんが、例えば私立大学を一つ引っ張ってくるにしても大学も今、子どもたちが減っています。

どれだけ魅力のある学校をつかって、どれだけ魅力のある子どもたちを引っ張ってこられるか。どれだけ人を集めやすい立地にするかで、苦心されていると聞いています。そのようなところを含めても、もっと利点が必要です。逆によそが驚くぐらいのことをするぐらいではないと、本当にはできないと正直、感じます。

それは大企業を引っ張ってくるだけではなくて、中小企業を引っ張ってくるにしても同じことです。例えば、個人事業主を引っ張ってくるにしても、この辺りで事務所を考えたい。土地から買って、何とかしたいと思っても、ここは市街化調整区域ですとなってしまうと駄目なわけです。そのようなところからしても、できる限り自由化する。

ずっと昔の話でいいますと、長浜もそうだったのかもしれませんが、大阪の堺なども確か自由市場でした。とにかく誰が来てもいいし、ここで好きに商売をしていい。昔は今ほど難しい税制はなかった時代ですから、簡単な話だったのかもなのかもしれません。そのぐらいドラスチックなことをしないと人は来ませんし、その部分に誰も共感をしてくれません。

そのようなところを具体的に次の実施計画の中で書いてもらえるとありがたいです。非常にたくさんの方が書いてあって、これだけするのはすごいです。どれか減らせないのかとも感じます。具体的なところのお話は今、できませんが、全体を見させてもらって、そのように感じました。

会 長 今、長浜よりも条件の悪い地方で、人の流入が多くなっている所は、結局は人が人を引っ張ってきています。面白い人がいて、そこにみんながある意味で、緩やかな関係をつくって、一緒に仕事をしている。長浜で何か面白い仕事をしている人を RP する。金銭面での優遇政策は、いずれ息切れしてしまうのではないかと感じています。例えば、地域おこし協力隊でビジネスをしている人でもいいですが、頑張っている面白い人を PR して、みんなが面白そう、楽しそうと感じられる風土とカルチャーをつくる。それが一時の黒壁だったのかもしれませんが、それをもう少し広げていくことが大切ではないでしょうか。

委 員 85 ページですが、長浜スタイルといわれる言葉が出てきます。この言葉がいつから出てきたのかは分かりませんが、下の基本方針の中で、グローバルな視点を持ってローカルから展開すると書いていますが、これはグローバルの説明であって、長浜スタイルの説明ではありません。長浜の独自性を持たせることは本当に素晴らしいことですし、魅力的なことですが、この中でいわれている長浜スタイルとは何なのか、教えてください。

事 務 局 長浜市には、産業振興ビジョンという計画があります。その中で、この文言が使われています。先ほどの話と相反するところがありますが、長浜市は外から事業者を呼び込む施策にずっと力を入れてきて、企業誘致で工業団地を造成してきました。

今は合併して地域も非常に広くなった中で、それぞれの地域で営まれている事業者もたくさんおられます。既に頑張られている事業者の方々にもっと力を付けてもらおう。あるいは、内から新たな事業を起こしてもらおうことに力を注ぐことを考えており、そのことを「長浜スタイル」として、産業振興ビジョンの中に位置付けています。このことをグローバルな視点で行っており、例えば、創業支援計画です。県内では、全国的にも早い段階で策定して、創業を促しています。事業を進めて 5 年ほどたっていますが毎年、数十名ずつの起業家が生まれています。

そこから継続して事業を営まれている方もおられ、その方が今、長浜市の経済を支えようとしてくれている方をつくっている現状があります。そのような人たちを数多くつくることによって、長浜市の産業や経済をしっかりと発展させていこうとの考え方を長浜スタイルとしてうたっています。

会 長 何か補足説明しないと、突然出てくると分からないですので、文言等の対応をお願いします。

事 務 局 事務局で考えて、もう少し分かりやすくします。趣旨はそのとおりですが、何かフォローできるような内容とします。

会 長 長浜スタイルを突き詰めることは、すごく大切です。そのような人や企業をたくさんつくって、育てて伸ばす。市内に(株)山正という企業がありますが、この間、たまたま社長さんと話をしましたが、日本で唯一、伊吹もぐさの製造をしているとのこと、驚きました。もぐさだけでは食べられないので、全国の鍼灸師に向けて業務用の針とお灸のグッズを作られましたが、日本にはもぐさの原料はありませんから、ほとんど外国相手、頻りに外国に行っているようです。

ローカルですが、すごくグローバルで驚きました。このような取組は、まさに長浜スタイルな気がします。

(2) 国土利用計画（改定最終案）について

事務局 <資料（資料3,4参照）>に基づき説明

パブリックコメント意見はなく、県協議による修正箇所について説明。

会長 これについてのご質問やご意見はありますか。10 ページの土地利用区分ごとの面積のなかで「水面」の目標面積が 14,331ha ですが、25 ページの目標値が 14,338ha となっており、どちらが正しいですか。

事務局 24 ページのほうに説明が書いてありますように、今後も大きな計画等はありませんので、目標値はそのまま 14,338 と設定するといいますが正しいものです。間違っている部分は修正します。

委員 長浜で一番、大切なのは人材育成と人とのマッチングです。長浜の特徴かもしれませんが、今の 70 歳前後の方がすごい意欲と意識をもたれており、あの方たちが 30 代のときに黒壁や木之本地域などの活性化に取り組み、そのまま走ってきて、今があります。

その成功体験が残っており、その成功体験を若い子が砕くことができていません。若い事業家は、その成功体験に捉われず、新しい発想をしていかないと長浜の地域は生き残っていきません。そのための人材育成として成功体験を一度、壊してしまうといいますが、リスペクトするところはリスペクトしなければいけません。その中で若い子が動きやすいようにマッチングの面でも人材育成の面でもしていかなければいけません。先ほど副会長が言われたように地域おこし協力隊のメンバーなどをはじめ、いろいろな方もいます。その方たちをいかに核にするか。

商工会や青年会議所もいいメンバーがいます。その方たちをいかに取り上げて、マッチングをさせることを考えなければいけません。余呉や西浅井の地域でも会合に行くと、私が一番、若いです。70 代や 80 代の方が大体、余呉や西浅井では将来の基本計画について話をされています。

各地域の自治会にも若い人が役員になってはいますが、市の計画が、自治会の若い役員さんのところに届いていないわけです。今までもいろいろな計画を作りましたが、それについて知っているかと聞くと、知らないと言われます。このような計画を自治会の若い役員さんに読んでもらえるような仕方で提案していかないと変わらないでしょう。

いろいろな会合を見ても、後ろ向きや上げ足取りばかりではなくて、前向きで建設的な意見をする。対案を出せばいいわけです。どこの会議でもあることですが、対案を出さずに批判ばかりの方が結構、多いです。そうならないように、計画を知ってもらうなどきちんとしていかなければ駄目だと思います。

会長 確かに黒壁も外から社長を呼んできましたが、結局は同じ方に戻ってしまいました。えきまち長浜も外から呼んできましたが、結局は同じ方に戻ってしまう。その当

時の方のところにまた先祖返りしてしまう形になってしまっているのです、そこがどうしても若い世代に行く選択肢がないことは残念です。

委員 皆さん、本当にいい発想をしていますし、素晴らしい方ばかりです。その方たちが一回、若い子の背中を押してあげられたら一番、いいのではないのでしょうか。私ども50 ぐらいの年代の者が間に入るなり、背中を押すような人材をマッチングするところが一番、大事です。

会長 この間、新木産業の方と話をしました。ずっと同じ指摘をしていましたが、少しずつ変わり始めたと言っていました。ここは今、ちょうどいいタイミングで、この5年や10年が変わり時ですし、そこで変わるかどうかカギだと思います。

委員 10年たてば、今の経営人は第一線からいなくなります。10年たった後に若い人たちがここにきて、実際にできますかとなったときが一番、問題です。10年を待つのか。今、ここで変わるのか。以前にそれを進めた方は非常に大きな決断です。そこを否定することはできませんし、その当時と今は当然ながら違います。これからも変わっていきます。これからのためにどうするのかを今、考えないといけないと思います。

会長 ありがとうございます。きょうの意見で検討しなければいけないことは事務局で検討をして、あとは私と相談しながら進めていきます。これは一つの思いを形にした方向性を位置付けたものです。あとは、皆さんも言われているように今度はこれを事業にして、市が皆さんを応援する形になっていきます。それは早速、来年度4月から始まっていきます。皆さんそれぞれもこれを作っていたこともありますから、長浜市がいい方向にうまく動いていくように、ぜひとも見守ってください。

3 その他

事務局 ありがとうございます。委員の皆さんには3回にわたって、いろいろな意見をいただきました。今回の審議をもちまして、総合計画と国土利用計画の見直しは終了となります。後々の手続きとしては、市として最終の意思決定を行い、3月に議会報告いたします。最終版が仕上がった段階で、本日の修正も含めた総合計画と国土利用計画を皆さまにも送付します。

総合政策部長 進行と取りまとめをされた石井先生をはじめ、皆さま方には熱心な議論と審議をありがとうございました。行政の枠を飛び越えるような刺激的な意見を頂戴いたしました。それぞれの計画の最終案はまとめりましたが、これをいかに実践していくかが大事です。実施計画と予算をしっかりと事業化して、目標に向かって事業管理をしていきます。総合計画のキャッチフレーズは挑戦と創造「Challenge & Creation」です。

いったん当審議会は閉じますが、引き続き、また皆さんからは叱咤激励をよろしくお願いいたします。簡単ではありますが、お礼のあいさつといたします。1年間、本当にありがとうございました。

以上